

まちづくりから考える新本庁舎

1 歴史的文脈を踏まえた勾当台エリアのあり方

勾当台エリアとは、ここでは勾当台公園・県庁・勾当台公園市民広場・市役所本庁舎周辺のことを言います。

(1) 歴史的文脈を踏まえた勾当台エリアのあり方と新本庁舎

●明治時代から続く行政機能

仙台市役所本庁舎が位置する勾当台エリアは、明治時代以降歴代の仙台市役所や宮城県庁等が位置し、行政機能を担ってきた場です。また、市役所周辺には四ツ谷用水が流れていました(※)。現在、そういった歴史を踏まえ勾当台公園内の水辺空間が形成されています。新本庁舎においても周辺公園との関係性や緑や歴史の連続性を踏まえたランドスケープ計画が必要と考えます。



写真提供 仙台市戦災復興記念館

※参考：佐藤昭典編著「仙台を創った「川」四ツ谷用水―総集編―」南北社

(2) これからの勾当台エリアのあり方を見据えた新本庁舎

●勾当台エリアは東北を代表する賑わい創出の拠点

現在の勾当台エリアは、市民広場や定禅寺通を中心とした公共空間で年間を通して多くのイベントが開催されています。勾当台公園の豊かな緑、市民広場の賑わいや定禅寺通の美しい並木道とせんだいメディアテークをはじめとした文化施設など、仙台駅前とは異なる賑わいは「仙台らしさ」のひとつと考えます。



Photo by Kohei Shikama

●行政主導のまちづくりから市民主役のまちづくりへ

従来の行政が主導してきたまちづくりから、近年は多くの人が集まりアイデアを出しながら市民・民間企業が主導するエリアマネジメントや公民連携事業でのまちづくりが活発になり、市民広場周辺や定禅寺通沿道でも検討がはじまっています。勾当台エリアの北側に位置する新本庁舎は、市民主役のまちづくりに貢献する場を持つことが求められます。

新本庁舎低層部に、下記事項を整備する検討を行います。

- ① 勾当台エリアの「賑わいに貢献する場」を整備
- ② 対話や議論を通じて、行政と市民が協働し「戦略を立てる場」を整備
- ③ 仙台の文化を「発信・体験する場」を整備

2 都心における歩行者の回遊性

現本庁舎が位置する勾当台エリアは、仙台駅から続くアーケードの北端部に位置しています。仙台駅西側の仙台市中心部(都心)には、錦町公園や勾当台公園、定禅寺通、西公園、青葉通といった緑豊かな公共空間が存在しており、これらを最大限生かした歩行者の回遊性が求められます。

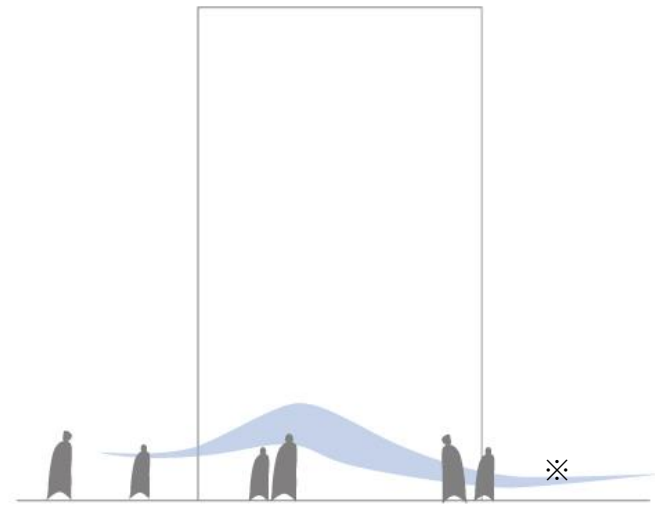
新本庁舎は「都心回遊の北の玄関口」として位置付け、歩行者の回遊性に寄与する場となることを目指します。

歩行者の回遊性イメージ図



↑ 航空写真(平成29年度仙台市撮影)を加工。

本庁舎敷地内に「通り抜け動線」を確保していくことで、都市の回遊性に寄与することとします。敷地内の「通り抜け動線」は、建物内または屋外空間に南北方向に配置し、青葉区役所や上杉分庁舎との連携、市民広場との一体性を確保しやすい配置とします。



↑周辺への通り抜け・各庁舎との連携イメージ

↑建物内部の通り抜けイメージ

※青枠部…歩行者の動線イメージ

●訪れる：屋内の市民利用機能

多彩な協働の場として市民が活動するスペースを新本庁舎に設けます。また、都心の回遊性に寄与するための方法のひとつとして歩行者の目的地となる場づくりが必要と考えることから、勾当台エリアでイベントが開催されていない時の日常利用の視点も考慮し、市民利用機能を検討します。

●集う：屋（内）外広場の整備

第2回検討委員会で下記3点の使い方をイメージし、市民広場と本庁舎敷地内の一体的な活用を視野に入れ、市道表小路線も含めた一体的利用の実現の可能性を検討することとしました。

- ・市民が日常利用できる広場
- ・イベントが開催できる広場
- ・防災広場としての機能

市民広場で行われているイベントを観客の行動(アクティビティ)の側面から表1のとおり分類し、新本庁舎敷地内に整備する広場で行われるイベントの可能性を検討しました。

市民広場では「見る」「買う」「食べる」等の享受型・参加型のイベントが多い一方で、「遊ぶ」等の体験型のイベントが少ないことがわかりました。そのため、既存の市民広場のイベントにも親和性を持ちつつ、異なったイベント類型にも対応できる広場を整備します。

以上のことから、新本庁舎敷地に整備する広場は「享受型」「参加型」に加え、「体験型」のイベントに対応できる広場の可能性を検討します。

【表1】観客行動から見た市民広場のイベントの分類

※ 下記表の分類は本庁舎建替準備室で分類した例であり、各イベント内容を定義付けるものではありません。

イベント分類	観客の行動	開催数	イベント内容
享受型	見る	11回/年	主にステージ発表や展示がメインのイベント
	買う	27回/年	主に物産市等の物販がメインのイベント
	見る + 買う	2回/年	主に展示・物販がメインのイベント
享受型 + 参加型	買う + 食べる	41回/年	主に物販・飲食がメインのイベント
参加型 + 体験型	見る + 買う + 食べる	15回/年	主にステージ発表等や展示・物販・飲食がメインのイベント
体験型	遊ぶ + 買う + 食べる	1回/年	主に物販・飲食・遊ぶ・つくる等がメインのイベント
	遊ぶ + 食べる	1回/年	主に飲食・遊ぶ・つくる等がメインのイベント